

東通原発地点海域温排水等影響調査

○木村 大・小田切譲二・奈良 賢静

発表誌名

昭和58年度東通原発地点海域温排水等影響調査報告書

抄 録

1. 漁獲量調査

白糖及び小田野沢漁業協同組合資料により、漁業種類別魚種別漁獲量を調査した。総漁獲量は1,321トンで、サケ(50.0%)、スルメイカ(34.7%)等が多獲されていた。漁業種類別では、小型定置網(54.7%)、いか釣(34.2%)が多かった。また小型定置網ではサケ、刺網ではサケ・ヒラメ、一本釣ではサクラマス、メヌケ、マグロ、棒受網ではイカナゴが多獲されていた。

過去10年間の平均と比して多かったのは、総漁獲量1.59倍、サケ2.34倍、スルメイカ2.30倍、ヤリイカ2.13倍、ヒラメ1.66倍等で、少なかったのは、カレイ類0.73倍、マグロ0.69倍、イカナゴ0.33倍などであった。

2. サケ稚魚分布調査

5～6月にかけて延5回(延70点)、イカナゴ光力利用敷網を用いて、サケ稚魚を採集した。

サケ稚魚は水深10m以浅に多く、特に5m線の小田野沢～小老部川沖、老部川～白糖港の海域で多かった。

老部川からのサケ稚魚放流状況及び標識魚の再捕状況からみて、5月中～下旬の尾叉長モード3～4cm台、6月上旬のモード6cm台のものは老部川放流群と思われる。

また5月上旬までの分布域は前面沖だけであったが、その後分散したものと思われる。

3. イカナゴ稚仔分布調査

サケ稚魚分布調査と同時期、同地点で採集した。

イカナゴ稚仔の分布状況を水深別にみると、水深の浅い調査点(5m)ほど多く分布し、水深20mでは殆どみられなかった。またこの調査期間中、常に多く分布した海域はなかった。